

副専攻

2004年度からはじまった副専攻は、現代社会の「今」を探求する新しい大学教育のスタイルです。
「副専攻とはどのようなものか？」新入生のみなさんの疑問にお答えします。



こんにちは。
今度から新しく始まる「副専攻」
について教わりにきました。
よろしくお願いします。

こちらこそ、
よろしく。



いきなりですが、「副専攻」って何なんですか？

主
専
攻

まず、「**主専攻**」の話から始めましょう。
みなさんは、駿河台大学のどれかの学部に所属しています。そして、2年生になると学科が決まります。法学部（法律学科）、経済学部（経済経営学科）、文化情報学部（文化情報学科・メディア情報学科）、現代文化学部（比較文化学科・心理学科）の4学部・6学科のどれかです。
そして、4学部・6学科には、それぞれの学部・学科の特色として中心的に学んでもらいたい分野があります。そこを卒業した人なら、これだけはきっと勉強しているに違いないとみんなが思うような分野です。たとえば、法学部なら法律や政治といったようにね。これが「主専攻」と呼ばれるものです。



「主専攻」は、その学部・学科で学んだ証明といったものなんですね。

副
専
攻

そう、そのようなものですね。
ところが、「**副専攻**」は、そういった**学部・学科の枠をこえて**、自分の興味・関心や将来どういった道に進みたいかということに基づいて、**自主的に学んでいくもの**なのです。**自分が学びたいテーマを選択**して、どのような科目を学んでいくか**自分自身で計画**を立ててね。これまでの大学にはなかった新しい学習スタイルなんですよ。



自主的にかぁ、選ぶのは大変ですね…

テ
マ
選
択

そう心配しなくても大丈夫だと思いますよ。**テーマを実際に選ぶのは1年次の秋**ですからね。余裕がたっぷりありますから。
ガイダンスも行い、他にもいろいろな機会を利用して詳しく説明し、十分に理解してもらえるよう**万全の指導体制**をとっていますね。
ファカルティ・アドバイザーの教員に、オフィスアワーのときに相談することもできるし、1年次演習でも質問することができますよ。積極的に指導を受けてください。



自由に選べるというのは魅力だけど、自分の望むものがあるかな？
いったい、テーマはいくつくらいあるんですか？

テ
マ

「**現代社会との関わり**」ということを中心に**30のテーマ**を用意しているから、きっと君たちの興味・関心と一致するテーマが見つかると思うよ。



具体的には、どんなテーマがあるんですか？

ク
ラ
ス
タ
ー

詳しくは、次頁の表を見てもらいたいんだけど、30のテーマは、大きくは**クラスターと呼ばれる4つのグループ**に分けられる。「国際化の時代を生きる」、「情報化の時代を生きる」、「現代社会の諸課題ととりくむ」、「現代社会を生きる自分を探求する」という4つですね。言いかえると、「世界に目を向ける」、「コンピュータ、インターネットなど情報に目を向ける」、「福祉や環境や経済など今の社会がもつ問題に目を向ける」、「今を生きる人の心に目を向ける」ということになるかな。



国際化の時代を生きる

- ① アメリカ ② EU-1(英語圏) ③ EU-2(ドイツ語圏) ④ EU-3(フランス語圏)
⑤ アジア ⑥ 国際化の中の日本 ⑦ 文明の多元性と法 ⑧ ことばとコミュニケーション

情報化の時代を生きる

- ⑨ 情報化社会と法 ⑩ 映像・音響情報 ⑪ 観光資源と情報 ⑫ 情報デザイン
⑬ ライブラリの科学 ⑭ アーカイブ ⑮ 情報マネジメント ⑯ 情報化と企業

現代社会の諸課題ととりくむ

- ⑰ 福祉 ⑱ 環境 ⑲ 起業学 ⑳ 平和と共生 ㉑ コミュニティー
㉒ 20世紀学 ㉓ 現代社会と法 ㉔ 公共政策 ㉕ 企業と法 ㉖ 企業と人間

現代社会を生きる自分を探求する

- ㉗ 自己発見と心理 ㉘ 現代社会と心理 ㉙ からだとこころ ㉚ 日本人



確かに「今」っていうテーマが多くて、ちょっとワクワクしますね。
ところで、「主専攻」・「副専攻」という2つを勉強しなければならないって、
学生の負担が増えるってことじゃないですか？

どこが変わった？

いやいや、そんなことはありません。

卒業までに学ばなければならない科目の総量は、「副専攻」導入前と変わらないのです。これまで、「主専攻」に当たる科目の他に、「副専攻」で学ぶ分ぐらいの科目を、みんな取ってきたんですよ。ただ、それは、卒業に必要だからであってね、どちらかという漠然と科目を選択してきた学生が多かったといえるのです。

「副専攻」は、そういうふう到现在までなんとなく選んできた科目の分を、**テーマを選択し、ちゃんと目的意識をもって、しっかりと勉強**してもらおうというものなのです。

そして、「副専攻」で学んだ成果は、「副専攻レポート」にまとめてもらうことになっています。「副専攻」で学んだすべての科目を、あらためてテーマの下にきちんと関連づけてもらうということです。



「目的意識をもって」というのはわかるけど、何のため「副専攻」を作らなければならなかったのですか？

副専攻の目標

まずは、**我々が生きている社会の現実**にきちんと目を向けて、大学での勉強をやってもらいたいということなのです。これからの世界を担っていくのは君たちなのですからね。「主専攻」の科目だって、「我々が生きる社会」という視点を失ってしまえば、決して生きたものとはならないのですよ。すでにわかっていると思いますが。

また、現代社会では、さまざまな問題が複雑にからみあっていて、一つの方向から見ただけでは、どこにその問題の根源があるかわからないこともあります。だから、大学にいる間に、**物事を多方面から立体的にそして柔軟に見る習慣**をつけてもらいたいのです。「今」を見極める目を養うということですね。この点でも、「副専攻」はピッタリだと思います。

そしてさらに、自分で計画を立てて学習するということが、**自主性を育ててもらい、独り立ち**できる人間になってもらおうということ、これも「副専攻」のねらいの一つです。

もちろん、大学で学べることには限りがあり、卒業後に実社会に出てから、さらにいろいろなことを学ばなければならないのは確かだけれど、大学にいる間にまず**社会への第一歩**を踏み出してもらおうということなのです。



要するに、大学生のうちから、**実社会の一員となる準備**をきちんとやっておくということですね。

まさにその通り！
どうでしょう、「副専攻」がどういうものか、大体わかってもらえたでしょうか？



よくわかりました。
今日はどうもありがとうございました。

では、さらに、具体的に、履修の手順や内容など、調べてください。

